

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）

県政の課題（テーマ）報告書

平成 30 年 8 月 2 日

山梨県知事 殿

氏名 藤田 喜稀  
留学先 ベトナム社会主義共和国  
留学期間 平成 29 年 8 月 25 日  
～平成 30 年 7 月 4 日

1 研究の課題（テーマ）

やまなしブランドの PR 推進のために必要な取組

2 概要

与えられた県政の課題（テーマ）の解決に導く考え方及び対応策等

7 月、予定よりも一か月以上早くなったが、ベトナム社会主義共和国への留学を終え、日本へ帰国した。正味 10 か月程度の留學生活であったが毎日が刺激的で非常に充実したものであった。この留學生活の経験を元に、やまなしブランドの PR 推進のために必要な取組みについて書いていく。

まずはじめに、「やまなしブランド」とは何かについての定義を再考したい。やまなしブランド推進本部によると「やまなしブランド」とは、『「やまなし」という地域のブランド、消費者、県民の心の中につくられる地域の価値観』という定義がなされている。このレポートでは以上のことを踏まえ、「やまなしブランド」を「山梨という山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれた土地柄と、そこに住む人々の手によって作りあげられた想いが伝わるもの」と定義し、現時点で私が考えていることを県政に対する提案 3 つを述べ、私の県政の課題に対する報告書とさせていただきます。

1. 留学を通じて感じた若い世代の交流人口の増加の必要性

10 月に後藤知事が参加してハノイで開催された「やまなし魅力説明会」に参加した。「やまなし魅力説明会」は実際に私の留學生活に大きな影響があり、非常に有意義なものであった。その後、JNTO や JETRO、JICA といった機関の所長や、ベトナム現地の旅行代理店の方にお話を伺う機会をいただいた。しかし、行政レベルでの取組みをみて私は今後、より活発な若い世代の観光人材の交流が必要であると考えた。当日、会場には日越両国の多くの観光の従事者や、ベトナム人学生がいたのにもかかわらず、日本人の学生としては私一人だけであったことも、そう感じた理由の一つである。また、大学でベトナム人の友人たちと話をすることで日常的によく感じることもある。それは、彼らが日本に対して抱いているイメージがかなり良いものであり、かつ日本に留學をしていた学生、したいと思っている学生が本当に多いということである。さらに、ベトナム人にとって日本へ旅行へ行くということはプレミアム感があり、一種のステータスであることもまた、確かであると感じた。彼らの興味はアニメ、漫画などのサブカルチャー、音楽などへのものだけではなく、日本国内での政治的な出来事や、時事的なニュースへの関心が非常に高いと感じている。また、あるベトナム人の友人は大学へ通いながら、専攻とは別に独学で日本語を学習して

いるということを知り、ベトナム人の学習意欲と向学心の高さに驚いている。しかし少なくとも私の周りには、日本への留学を経済的な事情で諦めたという学生も多く、やはり日本への留学は経済的にも大きな負担になるようだ。留学生を派遣し合うことは、若い世代の交流人口の増加を図る上で重要であると考え。しかし、ただ単に留学生の受け入れるための経済的基盤や受け皿の強化で、大学生などの若い世代の交流を促進するということだけでは、本質的には「やまなしブランド」PRの強化につながるとは私は思わない。また、ベトナム人が山梨に来ることがどうして必要なのだろうか。それを明確にすることが必要であると考え。私は山梨県立大学での2年間で、「カタコト英語プロジェクト」事業に携わり、実際に留学生が山梨県内の地域に関わることで、より多くの異文化との接触機会を与え、外国人ならではの視点から山梨の地域社会への現状と課題を私たちに気づかせてくれたと感じている。また、今後アジア圏からの訪日観光客が増加することが見込まれることを鑑みても、留学生と地域が密着に関わりを持っていることは「おもてなし」の精神を県民レベルで共有し、訪山梨県観光客との交流にも繋がり、山梨県内の観光がより活発なものにできるのではないかと考える。さらに、ベトナム人が地域に関わり、地域のために何かできることはないかとそこに住む人々と同じように悩み、生活することは、アジア圏の人々に対する日本人の潜在的な偏見や、言語の壁などから感じられる抵抗感を緩和することにもつながるのではないだろうか。「外国人として山梨に貢献できる」という感覚が重要であると考え。そして、これまでの話を元に山梨に留学したベトナム人の学生も、その後山梨に住みたいと思えるような、相互作用的なメリットを明確にし、留学生のニーズに沿った地域連携プロジェクトのような枠組みでの留学生受け入れプログラムを構築することを提案したい。これらを構築することで、他の地方自治体との差別化、個人レベルでの交流人口の増加につながり、またそれ以上の繋がりが生まれると考える。

## 2. ベトナム語地域限定特例通訳案内士について

私は留学中、STARLOTUSという日系のお土産ショップにインターンとして受け入れていただいていた。新しい商品の開発を企画立案の段階からプロジェクトを立ち上げる、非常に実践的かつ、リアルな現場の中で日々新しい刺激や発見できる、非常に密度の高いインターンシップであった。プロジェクトには地方の観光局や、JICAボランティアの青年海外協力隊の方などのサポートも頂きながら進めていた。また、インターンではそれだけでなく日常の営業業務も行なっていた。そこで感じたことは、日本人のお客様に対して、ネイティブの自分が日本語でお土産の商品説明をしても伝わるのは表面的な情報であるということだ。地元の特産のものを日本語で紹介するベトナム人学生の、自分の生まれ育った村への愛情と想いを語る姿に感動したと同時に、自分が同じことを話しても、そういった内面的な情報は決して伝わらないということが、非常に印象的であった。また、地方のメーカーの本社での商談や、コーヒーやカカオ農園の見学にも同行した。そこではコーヒー、カカオ、またその産業に従事する農家をはじめとする現地の人々の想いや声を実際に耳にして、これを消費者に届けることが非常に重要であるということに改めて実感した。ここで一度、この関係を観光に置き換えて考えてみたい。山梨において、その地域に暮らし、その地域を愛し、その地域の本当の魅力を知り、伝えることのできる地域限定特例通訳案内士を増やしていくことが必要である。それがやまなしブランドのPR、すなわち山梨県民の山梨に対する地域の価値観を外国人観光客に共有するということにつながるのではないだろうか。現在、山梨県の地域限定特例通訳案内士の言語は、英語、中国語、タイ語である。しかし今後、後藤知事を中心に山梨とベトナムとの観光協力の強化を推進して

いくということに鑑みて、訪山梨ベトナム人をより多く受け入れ、より地域の情報をベトナム人に伝えるために、私は地域限定通訳案内士にベトナム語を追加することを提案する。そして、一つ目の提案で述べた、留学生の地域との連携を図れるようなプロジェクトの留学生受け入れプログラムの一部として地域限定通訳案内士を育成し、山梨に留学をするベトナム人に対して、彼らを感じる等身大の山梨の印象を観光客に伝えてもらうことはできないだろうか。現在、山梨県立大学のゼミ活動でのプロジェクトとして、笛吹市芦川町へのベトナム人の観光産業従事者に観光客として誘致するプロジェクトが進んでいる。そのプロジェクトでは体験型のツアーを考えており、東京にはない地方都市の地域の魅力を感じられるものを考えている。安藤研究室の活動として、帰国したこれからも継続的にベトナムとの連携をとれる体制づくりを検討している。また、この度山梨県立大学と、人文社会科学大学との連携協定を締結したこともあり、この新しい協力関係を活用した連携についての可能性も模索していきたいと考えている。

### 3. 学生インターンシッププログラムを通じた産官学連携について

また、留学中私が受け入れて頂いていた STARLOTUS でのインターンシップをプログラムとして、山梨県から継続的にインターン生を派遣する、STARLOTUS、山梨県、山梨県立大学の産官学連携事業を立ち上げることにについて、実現可能性を模索していこうと考えている。先述にもあるようにこのインターンでは、商品開発の過程で地方にあるメーカーへの視察ツアーにも同行させて頂き、ベトナムの雰囲気を感じながら、現地の観光の可能性について実践的に考えることができると感じている。さらに、現在私が持たせていただいている、ニンビン観光局との協力事業がうまくいけば、山梨とベトナムの地方都市との関係構築にも繋がり、継続的にインターン生を派遣することも可能になると考えている。経営者の佐藤栄一社長は山梨県出身であり、現在はやまなし大使としても势力的に活動を行なっている。そのため、STARLOTUS と山梨県、山梨県立大学の産官学連携事業を構築することで、これからのベトナムと山梨県の双方向のツーリズムの協力関係のさらなる強化を図ることができるのではないだろうか。今回の留学で私は、大学へ通いながらその傍らでインターン業務をこなしていたこともあり、結果としては商品開発のプロジェクトは失敗に終わった。プログラムとして立ち上げるのにはまだ改善の余地はあるが、これからの山梨とベトナムをつなぐ若者人材の育成に一石を投じることができるようプログラムになるのではないかと考えている。

これらの提案を実現し、体制の構築をすることができれば、「やまなしブランド」のPRの推進及び、ダイナミックやまなし総合計画の一部を補完することができ、山梨とベトナムの双方向の観光協力に繋がると考える。

以上3つの提案によって、「山梨という山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれた土地柄と、そこに住む人々の手によって作りあげられた想いが伝わるもの」と定義した「やまなしブランド」の、現在の山梨県とベトナム間でのPR推進に一石を投じることができると考える。

出典

・ やまなしブランド戦略

[http://www.pref.yamanashi.jp/kankou-sk/documents/yamanashi\\_brand.pdf](http://www.pref.yamanashi.jp/kankou-sk/documents/yamanashi_brand.pdf)



やまなし魅力説明会での写真



STARLOTUS インターンでのカカオ農園視察の際の写真



人文社会科学大学との協定締結の際の写真

### 3 添付書類

詳細について、図・表・写真などの資料も含めてA4縦版5枚以内にまとめて報告してください。

※パソコン・ワープロの使用可（使用する文字は12ポイントとしてください。）